



特集

芝居小屋、 弁天座の奇跡

賑わいを呼び戻す、赤岡の町

劇場とは不思議なもので、劇場が人を呼び、そして人で満たされた途端、劇場自体も生き生きと膨らんでゆきます。「弁天座」の集客数は290席、小さいながらも歌舞伎には必須の花道やスッポン、せりや廻り舞台といった舞台機構がきちんと備わった芝居小屋です。

1900(明治33)年、当時は郷町として栄えていた赤岡町の旦那衆がお金を出し合ってつくったのが弁天座です。1928(昭和3)年には火災に遭いますがすぐに再建。演劇や映画など娯楽の発信源として大いに賑わいました。が、やがて時代の流れには逆らえず、1970(同45)年の台風で大破したのを機に閉館してしまいました。町も寂しくなる中、なんとか賑わいを取り戻そうと、2007(平成19)年に今の弁天座を誕生させたのでした。

おとしの市川海老蔵公演に始まり、今年7月にはここで桂文枝、笑福亭鶴瓶が落語を披露し、10月には市川海老蔵の大歌舞伎が再び上演されたことで、急速に芝居小屋の存在が広く知れ渡ることとなりました。弁天座はもちろん、その周辺も活気づいてきたようです。



新居典子 || 取材
河上展儀 || 写真